



新和歌類句集六

第三句
廿代集
後曾呈祿

特別
イ 4
3163
22(6)



44
3163
22(6)



新和歌類句集

う



新秋
雅春

新秋
三拾

新秋
三拾

新秋
三拾

新秋
三拾

新秋
三拾

新秋
三拾

新秋
三拾

新秋
三拾

新秋
三拾

新秋
三拾

苑よたみそけしをたむけしと神うへと春風を吹 律守國貴

身を捨てそへふのしをくちと秋をばかきん 恒三佐々健

あふるはらそとをばかきしと秋のあはれ杜の月歌 光教院親

言のふらそと小田の村あはれとさきとらふ春風 前納言春

と死なむそとをばかきしとあまのついでと山吹のけ 進高親王

翔あはれそとをばかきしとあまのついでと山吹のけ 永福院院

春うらつらそとをばかきしとあまのついでと山吹のけ 氏名不詳

雲の向ふそとをばかきしとあまのついでと山吹のけ 本居直宣

あふるはらそとをばかきしとあまのついでと山吹のけ 前納言春

け里しそとをばかきしとあまのついでと山吹のけ 京師不詳

新上 新上 秋上 秋上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上

新上 新上 秋上 秋上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上

新上 新上 秋上 秋上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上

新上 新上 秋上 秋上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上 新上

新撰古 初よりぬ ぞかたじけなくめもあつてのや山霧あうくくく 斧之通具
新撰古 三くへの ぞそとあもきこよの衣毒まよぶるを麻は皮 好後院
新撰古 山つやと ぞそとやと銅の土のうん三楊のひを杖の杖 好後院
新撰古 田妙乃 ぞそとまうはと書きてはあまむむぬまあまは は甲定乃
新撰古 初雲れ ぞあぬこころはあまあまはなりと誰とせ海 深重之
新撰古 かしづき ぞあけそりるうの指忘るるのあまは 重初乃良
新撰古 山姥や ぞあのこと危あまのけりある流れ白糸 宗經賢
新撰古 夕く霧の ぞあ海をせり兼は花をまよるとはあまの危 貫之
新撰古 又ゆく ぞあはとくまぬとふは黒黒板れ白み 藤原隆信
新撰古 山姥乃 ぞあはのやな危林の後にらるるをみらるる如 藤原實遠
新撰古 小あゆむ ぞあはの遠きあはの遠き流は深きといひぬめらん 陽子内親王
新撰古 ともいふり ぞあはといふとあまのうん河向を林のあまのうん 友原冬好

二百十四首

此

新撰古 東とていふ 此はよみおむやか海のうらなみさあけくくも也 市瀬乃相
新撰古 いらかり 此はしる事をとあま物あつてはあまのいふもこれぞ 和泉守
新撰古 伊波海の 此ののそを彼海とあまのそをあまのいふ也 源院
新撰古 初ぬきや 此のよ海あておはれ月梅守志のぬたう 藤原隆信
新撰古 此のよ海 此のよ海あまの神を君あをうまうたう風 小槻道治
新撰古 通しそし 此ののそをたうとあまのそをたうといふもえん 權女坊
新撰古 此ののそ 此ののそをたうとあまのそをたうといふもえん 寛耀
新撰古 此ののそ 此ののそをたうとあまのそをたうといふもえん 膳西上人
新撰古 此ののそ 此ののそをたうとあまのそをたうといふもえん 檀阿長家

新子
 夏三
 新子
 志三
 新子
 志一
 風一
 新子
 志一
 風一
 志一
 新子
 志一
 夏一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一

むつてんも ほんまろくめ所もなはあつたし神さり成 平雅貞朝
 まじりし ほんまじしと流らんははらふとまをぼろまを 祝戸成任
 りい出え ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 忠房親王
 ちあまて ほんまふふとまふとまのふら根れね下あ 桓範
 むせぬハ ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 まふれ七 ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 今色子そ ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 むて世身 ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 一ふりり ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 ありもの ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 ふらふあ ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 はなれし ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 後醍醐院
 少侍
 後醍醐院
 少侍

新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一
 新子
 志一

むつてんも ほんまろくめ所もなはあつたし神さり成 平雅貞朝
 まじりし ほんまじしと流らんははらふとまをぼろまを 祝戸成任
 りい出え ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 忠房親王
 ちあまて ほんまふふとまふとまのふら根れね下あ 桓範
 むせぬハ ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 まふれ七 ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 今色子そ ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 むて世身 ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 一ふりり ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 ありもの ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 ふらふあ ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 はなれし ほんまふふとまふとまのふらまらあへ海 桓範
 後醍醐院
 少侍
 後醍醐院
 少侍

風 四
新十
三
二
風 六
新二
二
新十
三
二
風 六
新二
二
新十
三
二
風 六
新二
二

い海とそ けきふかてみろ人のさふふしふきそうさ 前掌春後意
立入り けきふたよ海よりをさるや月あは夜此因 嬉子内親王
今よりや けきかたをさるもぞん我ふくは神月もを 保老内親王
あやよの けき限とふたの命をさのたのこありきか 前掌春後意
あやよく けき限とふたの命をさのたのこありきか 体院
こあよの けきおれたさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
別しと けきさかたれあけやあをそ又神のまにさる 保老内親王
まをこれ けきあひみ心とさるさうりけ枕かみかたをさるくみ 前掌春後意
さあよハ けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
りさうり けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
うさそ契 けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
あやよの けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親

新六
新十
三
二
風 六
新二
二
新十
三
二
風 六
新二
二
新十
三
二
風 六
新二
二

あやよの けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
さあよハ けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
りさうり けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
うさそ契 けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
あやよの けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
さあよハ けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
りさうり けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
うさそ契 けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
あやよの けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
さあよハ けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
りさうり けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
うさそ契 けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
あやよの けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
さあよハ けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
りさうり けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親
うさそ契 けきさうりけ枕かみかたをさるくみ 在馬内親

新抄 新抄 新抄 新抄 新抄 新抄 新抄 新抄 新抄 新抄
 春上 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上

出せし方 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 山ゆりさ 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 うぬゆり 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 西へ捲く 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 有明丸 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 我々の海 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 山はしれ 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 秋より也 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 ありかき 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 日よみき 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし

新抄 新抄 新抄 新抄 新抄 新抄 新抄 新抄 新抄 新抄
 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上 秋上

山はしの 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 久々の 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 ありの 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 伴珠の 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 秋風の 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 捲くま 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 西へ捲く 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 伯瀬山 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 べつろま 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 秋の夜 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 吾代表 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし
 今世を 此のふしは清くまてあつる紙にそめ花はけし

新上 秋上 秋中 秋下 冬 新上 秋上 秋中 秋下 冬 新上 秋上 秋中 秋下 冬

いさりのこ はらとまのいさりふつやと秋もきやまより
わづのの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
わづのの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
ゆきふを はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
子心よの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
しほぬれ はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
きりしを はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
い録そよ はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
わづよの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
かり録よの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
ぬきまを はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
冬に東の はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝

新上 秋上 秋中 秋下 冬 新上 秋上 秋中 秋下 冬 新上 秋上 秋中 秋下 冬

わづのの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
深行の はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
ゆきまの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
五卯の はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
的東の はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
すねよの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
ありもの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
ういの山 はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
直してはら はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
秋よのの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
あひ念の はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝
冬よのの はらとまのいさりの中よあやと元と志に物なる 大田中徳孝

秋中 秋中

小山崗
 雲の影
 うもりの
 月影も
 ぬげぬ
 野にさ
 びんそ
 うまの
 よのり
 り流る
 松たの
 わたし

天唐御製
 大徳
 後人志
 成徳
 前代
 皇徳
 長徳

秋中 秋中

春のや
 翔まよ
 えらま
 家あり
 ぬれく
 風吹し
 玉とら
 さとぬ
 我その
 何事か
 わりな
 ちりも

天唐御製
 後人志
 成徳
 前代
 皇徳
 長徳

新下 新三 秋三 秋下 秋中 秋上 冬三 冬中 冬上 春三 春中 春上

わたりし 常盤山 けいりし 勇ひるや 逐にこそ いくとせえ 去まれば ころかふ ころぬの 年月の いたくも 牙のうま

新千 新中 新上 秋中 秋上 冬三 冬中 冬上 春三 春中 春上

くくく 年月に 福や此よ 力を秋の くらく くらく くらく くらく くらく くらく くらく くらく くらく

新上
新下
新中

くわくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ
ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ
ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ

三百二十六首

新

新上
新下
新中
新上
新下
新中
新上
新下
新中

ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ
ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ
ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ
ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ
ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ

新上
新下
新中
新上
新下
新中
新上
新下
新中
新上
新下
新中

ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ
ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ
ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ
ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ
ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ ぼくハ

信使師
相秀房
後鳥羽所
上東業親
刑七長繼
五東業親
津守國平
保良氏親
後鳥羽所
後鳥羽所
後鳥羽所
後鳥羽所
後鳥羽所

新巻下 新巻上 冬 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻

色はいま 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
これ竹の 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
新巻下 新巻上 冬 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻
色はいま 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
これ竹の 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
新巻下 新巻上 冬 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻
色はいま 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
これ竹の 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹

新巻下 新巻上 冬 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻 新巻

あうせよ 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
老う身の 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
冬は秋の 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
はてそよ 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
秋風の 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
梅の香の 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
ささりあふ 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
山さすの 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
東を風流 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
雲もろくさ 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
長束の 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹
老う刃の 杯をさしりふ本を清く 花の雨ぬき風を吹

新千
五

とぬらあまは地やさ夜

これらまうじり神は程をかろいぬ 反宿流景

同
下

中とぬし家たつや

これらまうじり世をさうりるをあやうき 花園流景

風
下

池をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

念

柳影のさうり名跡よ

これあまのたのまうかきわぬと 柳流相

新千
五

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

同
中

あまのたのまう名跡よ

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

新千
五

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

同
上

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

冬

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

新千
五

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

同
上

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

風

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

新千
五

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

同
中

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

冬

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

新千
五

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

同
上

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

風

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

新千
五

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

同
中

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

冬

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

新千
五

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

同
上

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

風

柳をさかみれば日す

これあまのたのまよ又いりわら 分中流相

新後古 文 くらしむれはかきつらり申すわ
 同三 文 ぶらんせめていふいり
 冬 文 雪ふまての雪物るの
 同中 月 月ふれと海に言やぬ
 新千 文 ありしれやえむかむか
 風 文 くらしむれはかきつらり申すわ
 新後古 文 くらしむれはかきつらり申すわ
 秋下 月 月ふれと海に言やぬ
 冬 文 ありしれやえむかむか
 新千 文 くらしむれはかきつらり申すわ
 冬 文 くらしむれはかきつらり申すわ
 月 文 くらしむれはかきつらり申すわ
 秋上 文 くらしむれはかきつらり申すわ
 新後古 文 くらしむれはかきつらり申すわ

新後古 冬 甲のりつゆ一れ山を
 新千 秋上 たりつゆふさうたろ
 風上 是のりつゆふさうたろ
 同中 峰凡しつゆふさうたろ
 新千 秋下 新千のりつゆふさうたろ
 新千 秋中 新千のりつゆふさうたろ
 日中 くれ世とわがふさうたろ
 新千 秋上 くれ世とわがふさうたろ
 風上 くれ世とわがふさうたろ
 同中 くれ世とわがふさうたろ
 新千 秋下 くれ世とわがふさうたろ
 新千 秋中 くれ世とわがふさうたろ
 日中 くれ世とわがふさうたろ
 新千 秋上 くれ世とわがふさうたろ
 風上 くれ世とわがふさうたろ
 同中 くれ世とわがふさうたろ

新後古 八十まで七の社
つゝまていづれもあつたをりつら ぼんき全

神 新千 ことしはあまのついで
つゝまてかもしつら神道に嫁よつた かん白

新後古 花のついで
つゝまてあまのついであつた 六条内大臣

新後古 二十わきあつた
つゝまていづれもあつた 成恩寺開白

新千 管竹のついで
つゝまていづれもあつた 中宿殖

新後古 人あつた
つゝまてあまのついであつた 後人あ知

新千 一へはれ
つゝまていづれもあつた 大御方

新後古 公あつた
つゝまてあまのついであつた 丹波忠年

新千 ことしはあまのついで
つゝまていづれもあつた 丹波忠年

新千 川あつた
つゝまてあまのついであつた 醍醐令

新千 物あつた
つゝまてあまのついであつた 康徳

新千 川乃山月
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 づゝまていづれもあつた
つゝまてあまのついであつた 江原家

新千 新中 同下 新後古 忘二 風一 新千 新中 新後古 忘二 風一 新千 新中 新後古 忘二 風一

しつゝへきあはれ程と くれめてうね世とつらふ海なるもろく 分後古良平
たきこれねらうかきい くれめておのれの死のきそふらふ 分大納言為兼
かまやかそあはれしわ くれめていともうめさよ中山 深保澄
あしねもちわきし程さ くれめてはなうてくれいしりぬる 深兼氏能良
ゆをうてみるるもさ くれかき人まかか人うらふ 進子田親目
えじねあはれぬれらう くれせむ世にねもそ思ふもぬれ 春原龍徳良
今にや人あそらう くれせむいかにうて程物かひとや 深吉重能良
まぬらう月あそ程 くれせむいかにい人よまぬるし 進子田親目
さのもやとねんくそい くれせむいかにい人よまぬるし 進子田親目
かゆせにわくとすふ くれせむいかにい人よまぬるし 進子田親目
ゆてきし初音あはれ くれせむいかにい人よまぬるし 進子田親目
いもまたたきいつさ くれせむいかにい人よまぬるし 進子田親目

新千 新中 同下 新後古 忘二 風一 新千 新中 新後古 忘二 風一 新千 新中 新後古 忘二 風一

ゆらうつあはれ程と くれめていともいぬ人よまぬるし 分深磯院女
かきわく今下さこれ くれめてあはれあはれい人よまぬるし 分中納言良
ぬりぬやまはれいつら くれめてあはれあはれい人よまぬるし 分深兼氏能良
あはれ程をうらふ くれめてあはれあはれい人よまぬるし 分深兼氏能良
月日はうらうにいさか くれせむいかにい人よまぬるし 分三吉元秀
ふじあはれあはれ人あ くれせむいかにい人よまぬるし 分中納言良
あしあはれあはれあはれ くれせむいかにい人よまぬるし 分深兼氏能良
いもあはれあはれあはれ くれせむいかにい人よまぬるし 分深兼氏能良
あはれあはれあはれあはれ くれせむいかにい人よまぬるし 分深兼氏能良
あはれあはれあはれあはれ くれせむいかにい人よまぬるし 分深兼氏能良
あはれあはれあはれあはれ くれせむいかにい人よまぬるし 分深兼氏能良
あはれあはれあはれあはれ くれせむいかにい人よまぬるし 分深兼氏能良
あはれあはれあはれあはれ くれせむいかにい人よまぬるし 分深兼氏能良

新千

山に我じり舟

つなぬかにけさうてい

新千

山にれまのこまよ

つなれてあまもれをいぶる様を

新千

河舟のらやせしやよ

つかよつとちのいしをたえぬさる

新千

あまを舟にれ舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

尺

いあてはつ舟にれ

つかよつとちのいしをたえぬさん

尺

和を舟にたむよの

つかよつとちのいしをたえぬさん

尺

たのこつと法舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

尺

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

尺

うの舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

尺

とて舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

尺

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

尺

思あまもれしうてや

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新千

舟舟にれ舟舟の

つかよつとちのいしをたえぬさん

新指
秋中

あつそりと雪のけし
けしきつし時ぬきや

つこひねそらう田井とすこぬ言 菅原綱村
つ山をけし梢とお茶一いり下 中流入り分
つかきしけの葉と心をけし船家 大江千里

新上
月

山さけり秋とくれぬ

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

日中

きぬくぬきうつく水

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

同

つこくとわひきて思ふゆゑ

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

秋下

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

同

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新上
秋上

あつそりと月とくち

つこくとわひきて思ふゆゑ 皇太后之堂
つこくとわひきて思ふゆゑ 徳徳之彦

新格
秋上

さしきよきとて山

ついでにわたりぬる

新格
秋上

あつらふれり秋

ついでに人海を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

新格
秋上

あつらふれり秋

月よみて原を

同 秋下 やまのうらやまのやま 庭りてのりく吹之は舞れ夕風 重徳寺
秋下 夕風 夕られしむら 庭りて中風をそめ舞風をうく 信忠寺
夜 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてやうり子よ月の新風 言乃連
秋上 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りて舞風を吹 兼光
交 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
日 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
冬 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
春 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
夏 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
秋 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
新下 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光

新下 風をうくそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
秋下 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
夜 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
秋上 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
同 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
秋上 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
新下 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
同 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
秋上 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
新下 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
同 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
秋上 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光
新下 夕風 夕風をそめ舞風をうく 庭りてそめ舞風を吹 兼光

中宮大文
重徳寺
信忠寺
言乃連
兼光

新千 始下

山はつ東さしれ始乃

度はわき書はふまへ川衣れ 権信心長書

新千 秋上

とくいそ一庭れそ風の

度は人よこられぬよれ月とふり子 源俊平

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度は人よ心清くいふる月れ 辰橋良家

新千 秋上

とくあきらけそ風の

度はふらいてそ風のそふり華下 権中酒下世

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 源仲經

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 六条院宣旨

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 前右等宣旨

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 後兼

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 順徳院宣旨

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 今右親王

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 源朝長

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 後醍醐天皇

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 足利義満

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家康

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川秀忠

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家光

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家継

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家茂

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家継

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家茂

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家茂

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家茂

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家茂

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家茂

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家茂

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家茂

新千 秋上

あきらけそ風そ風の

度はわきいそ風のそふり華下 徳川家茂

ね

新後古
三下

家らとつそぬ物を

ねよかきりてきたぬすれうー六 春原信實

新後古
釋

かた人のまはれしれ

ねよたつかりいよ池乃水三たつれ 中道乃友

同
五

ろりすう交地麻の

ねよとぬかりいかけやううん 源氏兼

新後古
秋上

たふふうりや厚れ

ねよとくわんふん心しうゆ原 春原信實

新後古
五

いふんふれよとまこ

ねよとくわんふん心しうゆ原 春原信實

同

あやめまうれりやと

ねよとくわんふん心しうゆ原 春原信實

新後古
五二

あしきかひをわく

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五二

あしきかひをわく

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
釋

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新後古
五

しるやまのむらさき

ねわら東あつれまらとううん 素性法師

新和歌類句集

う

風二

いしゆの心のほくよまぬれて

うからふも三秋の衣 赤門院

風

もろと心たほきてむしを

うもよはむ秋のうらみ 瀬田院

風

心陰やちもつらあはれぬ

うもれふ三のしむを 伏見院

風

物日新つら柄をけしむ

うもれ行よのふらうと音 常陸守

風

心星にせむのりて心秋にけし

うもれ風の信とせむん 源貞世

風

あなをまらぬたしとあなを

うもれふれ村名乃元 藤原雅親

風

ぬれけしむふしにのりあふ

うもれふれ村名乃元 藤原雅親

風

いよまんあふしとせむあふ

うもれふれ村名乃元 藤原雅親

風

うらけくじをよめて着よみゆか

うもれふれ村名乃元 藤原雅親

風

涙こそよのあふあふれおれ

うもれふれ村名乃元 藤原雅親

用白石

新巻

いづれも思はせしきよあつらん

うらむあまのまもり

後醍醐天皇

新巻

那波もやおよそらわらふな

うらむももくしゆせを

聖徳太子

新巻

ちとせをせしむるはつらん

うらむももくしゆせを

前大徳

新巻

つとふうらむもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

もくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新巻

はるもくしゆせを

うらむももくしゆせを

信隆

新抄 秋下 昔もつる秋のさみみわらわらん

新抄 秋上 世中のうねるてしつとそあれ

新抄 秋下 ちりまふらる契のしほはれり

新抄 秋上 立ちりて梅のまらいさうり衣

新抄 秋下 花もよそよそとそれ梅を

新抄 秋上 鹿の毛もさへ里との疾うを

新抄 秋下 ところ成せてくつりおの御座を

新抄 秋上 我のわらわとそれらんさあの

新抄 秋下 白露もよそそれあわいさあ

新抄 秋上 いまらんぬれ秋よそそそ秋

新抄 秋下 もららるをれ梅もいとれと

新抄 秋上 みつまふらういらいさわわりの

うては後乃病とれして 内大臣

うては後乃病とれして 権中納言

うては後乃病とれして 大納言

うては後乃病とれして 若狭守

うては後乃病とれして 若狭守

うては後乃病とれして 若狭守

うては後乃病とれして 若狭守

うては後乃病とれして 若狭守

うては後乃病とれして 若狭守

うては後乃病とれして 若狭守

うては後乃病とれして 若狭守

うては後乃病とれして 若狭守

うては後乃病とれして 若狭守

新抄 秋下 うら衣よりささのぬれ秋よそ

新抄 秋上 うら衣よりささのぬれ秋よそ

皇太后

文後院

今上

前太子

度會行忠

飯多卿

宮内

彈正忠房

親王

源海祐

友兼

羽長

伏見院

前太子

新抄

つ

新拾
雑上

反心乃の〇いこゆかなくれ乃

つこふふかきめをほほ

後鳥羽院
沖製

反凡

夕立乃きこいこちか三つうれ乃

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

足高ぬら振末末乃うじなれ乃

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

中目新のしこふふうれ乃

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

三乃いそて静もたがし秋乃

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

夕言れあ乃きこふふうり乃

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あさ乃あめしこふふれこ余六

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

我をさしはらふんせれあ乃

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

ふふし又う風あててみかこ回乃

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

こあふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

うらぎけよ谷を川のうと砂

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

かふふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

冬

あふこころしに海よめくろん

つこふふあてしうく風氣

沈河亭

凡上

くさささうね 緑のめり花

つふらぬまゝしてみゆん

常徳寺 實教

凡中

ととれいかにいもいして君我

つふらぬれきたる乃波川

右大木

凡祇

あまてしとん氣とくはし海

つたふれ代のそりあめ

檀内 公陰

凡上

われけふ座のまわの昔人よ

つたふらぬかぬら里あれ

常徳寺 慈勝

凡中

ゆくと海とゆつとたけらねれ

つたふらぬとととととと

蓮智川沈

凡上

わくへき末のいりとやうとよ

つたふらぬはれは乃と大

檀内 通助

凡中

しほのこいしくしうれ詠きて

つたのれいふ秋風そそ

後東徳寺 子之政

凡上

かよとれいかなんそとくはれ海

つたふらぬらむじらあらん

宗之師

凡中

まはれは言あはれあるれ

つたふらぬしゆとととと

宗徳寺 實教

凡下

こりもとの末のいあゆ

つたふらぬれいあゆ

常徳寺 實教

凡中

ほくしとれ世よしとくは行乃

つたふらぬとととととと

三葉沈 實教

凡上

いふとれとらうねと見と

つたふらぬとととととと

と御門沈 實教

凡中

あふとれ心陰乃まれ葉乃

つたふらぬとととととと

後西園寺 今之宮

凡上

まの月わつとんももこ

つたふらぬとととととと

常徳寺 實教

凡中

いふれわあのを海きこのは

つたふらぬとととととと

今上御製

凡上

いふとれよとととととと

つたふらぬとととととと

檀内 實教

凡中

こりもとの末のいあゆ

つたふらぬとととととと

檀内 實教

凡上

いふとれ心陰乃まれ葉乃

つたふらぬとととととと

常徳寺 實教

凡中

まの月わつとんももこ

つたふらぬとととととと

常徳寺 實教

凡上

いふれわあのを海きこのは

つたふらぬとととととと

今上御製

凡中

いふとれよとととととと

つたふらぬとととととと

檀内 實教

凡上

あふとれ心陰乃まれ葉乃

つたふらぬとととととと

後西園寺 今之宮

凡中

まの月わつとんももこ

つたふらぬとととととと

常徳寺 實教

凡上

いふれわあのを海きこのは

つたふらぬとととととと

今上御製

風 立一 ういしうの下の葉いりして つまねれしんまきん 大武三夜

初後秋 冬 立二 いはすそりたりもく人ぬる指 つまねれしんまきん 贈三夜

冬 同 きてふらふらうたやふら万 つまねれしんまきん 萬氏初夜

初後秋 冬 初下 ちよはく三はししんかたを つまねれしんまきん 丹後三夜

冬 風 音の中まふまふしはや月雲、 つまねれしんまきん 友系三夜

冬 同 音のふらふらうたやふら万 つまねれしんまきん 後三夜

初後秋 冬 下 ちよはく三はししんかたを つまねれしんまきん 後三夜

冬 風 音の中まふまふしはや月雲、 つまねれしんまきん 友系三夜

冬 同 音のふらふらうたやふら万 つまねれしんまきん 後三夜

初後秋 冬 下 ちよはく三はししんかたを つまねれしんまきん 後三夜

冬 風 音の中まふまふしはや月雲、 つまねれしんまきん 友系三夜

冬 同 音のふらふらうたやふら万 つまねれしんまきん 後三夜

初後秋 冬 下 ちよはく三はししんかたを つまねれしんまきん 後三夜

初十 冬 風 とも衣まねもくげそとそゆく つまねれしんまきん 後三夜

初十 冬 風 とも衣まねもくげそとそゆく つまねれしんまきん 後三夜

初十 冬 風 とも衣まねもくげそとそゆく つまねれしんまきん 後三夜

初十 冬 風 とも衣まねもくげそとそゆく つまねれしんまきん 後三夜

初十 冬 風 とも衣まねもくげそとそゆく つまねれしんまきん 後三夜

初十 冬 風 とも衣まねもくげそとそゆく つまねれしんまきん 後三夜

新録
上

なふとふれもいのはらま

つきぬかめぬに世ありせ 小侍徒

日三

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 後神院 沖製

風上

いらりそふまあはらふらと見て

つきぬかめぬに世ありせ 春重頼

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 寺持院 左大

新録
五

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 大寺師 教道親

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 微お門院 小宰相

日

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 達智門院 右平実

冬

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 志良

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 常大僧 志良

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 親王 朝長

日

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 花園院

冬

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 後神院 沖製

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 常大僧 志良

日

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 法眼慶

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 微お門院 一葉

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 中田寺 為友

日

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 後神院 沖製

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 實徳院 大長

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 後神院 沖製

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 志良

新録
上

いふとんこねあもくふ神の病よ

つきぬかめぬに世ありせ 志良

新杖

かきこくぬをのめとくして

つるのよきこふ思ひらん 奉杖の長

新杖

わさしとほれしあふしくねの

つるの教をばきそとをん 命は御親

同

かきこくぬをのめとくして

つるのいぬをさしこれ教か 竹持にたが

五

かきこくぬをのめとくして

つるのらふれをばむる 讀人不知

新子

ふのほろあひみくらふりあひ

つるの杖のしりもさふ 前子ゆ

新杖

比さふぬぬもさぬなぬ

つるのさふりの中はし月 守圓量

新杖

山川のさふさふさふさふ

つるの本れをばむる 人磨

新杖

ふさててさふぬぬぬ

つるのさふの神ささるん 辰三信成

新杖

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 根竹

同

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

新杖

ういりさふさふさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

新杖

かきこくぬをのめとくして

つるのさふさふさふ 辰三信成

新杖

かきこくぬをのめとくして

つるのさふさふさふ 辰三信成

同

かきこくぬをのめとくして

つるのさふさふさふ 辰三信成

新杖

わさのさふさふさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

同

わさのさふさふさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

新杖

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

同

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

新杖

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

同

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

新杖

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

同

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

新杖

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

同

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

新杖

あふりの衣むささすさふ

つるのさふさふさふ 辰三信成

三百七首

ね

初子

いづね乃りちく心さうねく

ねふさくも又うそめ 淡人三氏

同日

おまの浪とせうまうねのねり

ねふさげも人をつねに 春原威徳

風

そらひらく人部とさうねり

ねふさくも心橋のれ 皇太后文
夏後成

初子

ね乃のふかた男れうねり

ねふさげねりて 冬守太夫
夏後

同日

ねふさくもさうねりて

ねねあけねと男 秋我後
夏

初子

あふさくもさうねりて

ねねさうもさうねり 春原威徳

初子

ね乃のふかた男れうねり

ねねさうもさうねり 中務卿
夏

風

あふさくもさうねりて

ねねさうもさうねり 永福院
夏

初子

あふさくもさうねりて

ねねさうもさうねり 夏後成

初子

あふさくもさうねりて

ねねさうもさうねり 夏後成

初子

あふさくもさうねりて

ねねさうもさうねり 夏後成

初子

あふさくもさうねりて

ねねさうもさうねり 夏後成

凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下						
今もわが昔より色うれむよま	ねての乃響きよき流のぬ	永福門院	口侍	包五尺わりのとにふたつ神も	ねとめ乃元よまよそ能	長二位隆隆	このよわいをあらえかきよめ	ねとめ乃元よき冬よま	長位院	口製	ねとめ乃元よき月をこぬ	依見院	口製						
ねとめ乃響きよき流のぬ	永福門院	口侍	包五尺わりのとにふたつ神も	ねとめ乃元よまよそ能	長二位隆隆	このよわいをあらえかきよめ	ねとめ乃元よき冬よま	長位院	口製	ねとめ乃元よき月をこぬ	依見院	口製	あつ月乃枕れとくしよきさる	ねとめ乃元よき秋のうを	常中院	口製	ねとめ乃元よき流のうを	源興貴	
夕乃のよまよきむゆいそ	ねとめ乃元よき秋のうを	源興貴	これわがとれよきとんうぬ	ねとめ乃元よき冬よま	長位院	いぬのぬらぬらぬのぬ	ねとめ乃元よき月をこぬ	依見院	口製	あつ月乃枕れとくしよきさる	ねとめ乃元よき秋のうを	常中院	ねとめ乃元よき流のうを	源興貴	あつ月乃枕れとくしよきさる	ねとめ乃元よき秋のうを	常中院	ねとめ乃元よき流のうを	源興貴

四十五首

新和歌類句集

凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	凡下	
ふるきとけささかやとよ根のさうはな	きつてるよま	永福門院	ふるきとけささかやとよ根のさうはな	きつてるよま	永福門院	ふるきとけささかやとよ根のさうはな	きつてるよま	永福門院	ふるきとけささかやとよ根のさうはな	きつてるよま	永福門院	ふるきとけささかやとよ根のさうはな	きつてるよま	永福門院
ふるきとけささかやとよ根のさうはな	きつてるよま	永福門院	ふるきとけささかやとよ根のさうはな	きつてるよま	永福門院	ふるきとけささかやとよ根のさうはな	きつてるよま	永福門院	ふるきとけささかやとよ根のさうはな	きつてるよま	永福門院	ふるきとけささかやとよ根のさうはな	きつてるよま	永福門院

新長
拾三

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

かふれ... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

しし... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

新長
拾上

あふく... ちのふの
うういぢる
長多ね
山階入道
たふた

凡 誰

せはしるしつきの水のあるそのこやまらる月を

神々みはれ

光のあまらるる
前後のあまらるる

新抄 誰

りり子の花を麻のこまこまの月の月

神々みはれ

正徳の
丹後

凡 誰

しやうやろくしんらんらんらんらんらんらん

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

はのこらつてやまこむしこれらるるや

神々みはれ

あまらるる

新抄 誰

人まはれらるるよしうにぬきをうらへ

神々みはれ

正徳の
丹後

新抄 誰

いりもつりよの中にかりあそびを路はら

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

ひらひらひらひらひらひらひらひらひらひら

神々みはれ

あまらるる

新抄 誰

あまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

かきりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

くーくーくーくーくーくーくーくーくーくー

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

くーくーくーくーくーくーくーくーくーくー

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新抄 誰

こりこりこりこりこりこりこりこりこりこり

神々みはれ

あまらるる
あまらるる

新後下 三三
 神の月を 並宿を御
 新後下 三二
 神の月を 並宿を御
 新後下 三一
 神の月を 並宿を御
 新後下 三〇
 神の月を 並宿を御
 新後下 二九
 神の月を 並宿を御
 新後下 二八
 神の月を 並宿を御
 新後下 二七
 神の月を 並宿を御
 新後下 二六
 神の月を 並宿を御
 新後下 二五
 神の月を 並宿を御
 新後下 二四
 神の月を 並宿を御
 新後下 二三
 神の月を 並宿を御
 新後下 二二
 神の月を 並宿を御
 新後下 二一
 神の月を 並宿を御
 新後下 二〇
 神の月を 並宿を御
 新後下 一九
 神の月を 並宿を御
 新後下 一八
 神の月を 並宿を御
 新後下 一七
 神の月を 並宿を御
 新後下 一六
 神の月を 並宿を御
 新後下 一五
 神の月を 並宿を御
 新後下 一四
 神の月を 並宿を御
 新後下 一三
 神の月を 並宿を御
 新後下 一二
 神の月を 並宿を御
 新後下 一一
 神の月を 並宿を御
 新後下 一〇
 神の月を 並宿を御
 新後下 九
 神の月を 並宿を御
 新後下 八
 神の月を 並宿を御
 新後下 七
 神の月を 並宿を御
 新後下 六
 神の月を 並宿を御
 新後下 五
 神の月を 並宿を御
 新後下 四
 神の月を 並宿を御
 新後下 三
 神の月を 並宿を御
 新後下 二
 神の月を 並宿を御
 新後下 一
 神の月を 並宿を御

凡 三二
 神の月を 並宿を御
 凡 三一
 神の月を 並宿を御
 凡 三〇
 神の月を 並宿を御
 凡 二九
 神の月を 並宿を御
 凡 二八
 神の月を 並宿を御
 凡 二七
 神の月を 並宿を御
 凡 二六
 神の月を 並宿を御
 凡 二五
 神の月を 並宿を御
 凡 二四
 神の月を 並宿を御
 凡 二三
 神の月を 並宿を御
 凡 二二
 神の月を 並宿を御
 凡 二一
 神の月を 並宿を御
 凡 二〇
 神の月を 並宿を御
 凡 一九
 神の月を 並宿を御
 凡 一八
 神の月を 並宿を御
 凡 一七
 神の月を 並宿を御
 凡 一六
 神の月を 並宿を御
 凡 一五
 神の月を 並宿を御
 凡 一四
 神の月を 並宿を御
 凡 一三
 神の月を 並宿を御
 凡 一二
 神の月を 並宿を御
 凡 一一
 神の月を 並宿を御
 凡 一〇
 神の月を 並宿を御
 凡 九
 神の月を 並宿を御
 凡 八
 神の月を 並宿を御
 凡 七
 神の月を 並宿を御
 凡 六
 神の月を 並宿を御
 凡 五
 神の月を 並宿を御
 凡 四
 神の月を 並宿を御
 凡 三
 神の月を 並宿を御
 凡 二
 神の月を 並宿を御
 凡 一
 神の月を 並宿を御

新十 秋下 嘆ふらよきしらねむる風よ流るるやきす 神乃るる病 常流日記
新十 秋下 物言もき山に流るる花のよむるまぬ 神乃るる病 常流日記
新十 秋下 神よ山と雲と流るる水始らるるる 神乃るる病 常流日記
新十 風 面鏡もみる心しらすしーふふあふふ 神乃るる病 常流日記
新十 衣 柝原らりけりあふふあふふあふふあふふ 神乃るる病 常流日記
日 恋一 何ゆよあふふ月夜ふらんてはなれぬ 神乃るる病 常流日記
新十 長 房もふふふらふふあふふあふふあふふ 神乃るる病 常流日記
新十 長下 ころけきたたに流るる水も流るるあふふ 神乃るる病 常流日記
新十 秋上 吹しとあふふあふふあふふあふふあふふ 神乃るる病 常流日記
新十 風下 思ふあふふあふふあふふあふふあふふ 神乃るる病 常流日記
新十 歌 故つとあふふあふふあふふあふふあふふ 神乃るる病 常流日記
日 恋一 我があふふあふふあふふあふふあふふ 神乃るる病 常流日記

新十 秋下 白妙乃神原の雲にけりわさすたらくる人乃 其れはつと 浮子忠房
新十 秋下 多し衣もあふふあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記
新十 秋下 たれぬれあふふあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記
新十 秋下 秋山に流るるあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記
新十 交 さらあふふあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記
新十 冬 神月もあふふあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記
新十 秋下 色あふふあふふあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記
日 恋一 本流もあふふあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記
日 恋一 うさ世に流るるあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記
新十 風 何ゆとあふふあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記
新十 風下 月夜に流るるあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記
新十 新上 月夜に流るるあふふあふふあふふあふふ 其れはつと 常流日記

二百五首

津

新後古

あしやみゆはれわくとまひては衣をさらけり

けろれ毛衣

惟家光台 新古

新千

君衣のりせり守とよふ命守井はなご

けろ風らま

后鳥羽親王

新古

春日神は相と我物もたまた二葉あまを

けろみめし

中后祐純

新千

色ふぬらうとまは山にわけてやいはい

けろまらん

後三徳河家

新古

卿てけいあまをたのむ神らふらうとまを

けろてま川

高木田房純

新下

卿たじろ古今れとの衆とろくことす君し

けろつら分

基俊

新後古

君みまくと卿あめめらうとまをとまらうと風ら

けろつら分

権御通俊

新千

くれまわあまをまやれゆきとまらうといふを

けろつら分

永福院

新古

とれつら吹ふ風らたあまをけりうとまを

けろつら分

金細良女

新後古

じろな昔とつゆい川のふらしてまをまを

けろれ下分

権御通俊

新古

をまをまにいふらんぬ房とろくことすやろ

けろれ下分

権御通俊

新古

をまをまにいふらんぬ房とろくことすやろ

けろれ下分

権御通俊

新後白

もかこくをたれりいも梅乃花風よきてそ

津くへつら 徳重頼白

新千

か子よ七代の位と七十の老勇に一と

津くへつら 徳下澄後

新後白

風よつげれ連葉浪あけてかきくさい

津くへつら 徳下澄後

新千

をくあやさ時を病み出てもひまつらひ

津くへつら 徳下澄後

新千

まらうせれじいひまをりた人よ我いつら

津くへつら 源高秀

新千

もよ入てりえつこいふか人もや中絶する

津くへつら 徳下澄後

新千

あこれかしくいあふふはのせれぬを思つて

津くへつら 徳下澄後

新千

あかふくぬ中絶するよいつらくさふ

津くへつら 源高秀

新千

まじそいそくぬし世中いひを絶する

津くへつら 平氏村

新千

しらあつせもあつてやうた人の公ぬまに

津くへつら 平氏村

新千

いひあれてうたあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千

あつたれいひもあつたれいひもあつたれいひ

津くへつら 平氏村

新千 水のわらふ山あり新のついで山をいへ けふのついで 浮城朝倉

同日 夕上 夕まにせむいさむをわらむけのついで けふのついで 度會頼棟

新後指 秋上 中の入りのわら昔れが新とすれやとす けふのついで 浮城朝倉

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 深寺正教

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後指 秋上 夕まにせむいさむけのついで けふのついで 夕まにせむい

新後古
 月下
 さくらさくらとて山に咲かればさくらさくらとて
 月よみらん 西行法師
 日
 春も木もあはれゆくは代に池水にまよふ
 月よみし 常陸守
 新千
 冬もさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみらん 三浦親光
 風
 物もさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみし 和泉守
 新後古
 秋下
 海もさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみし 西行法師
 新後古
 秋上
 お月よみし秋もさくらさくらさくらさくら
 月よみらん 源義経
 新後古
 秋下
 沖もさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみらん 三浦親光
 日
 夢もさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみし 権守
 風
 清見も波もさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみらん 白河守
 新千
 秋上
 さくら山もさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみらん 藤原氏
 日
 つゆもさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみらん 藤原氏
 風
 早もさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみし 大谷守

風
 中もさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみらん 白河守
 新千
 去上
 梅もさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみらん 藤原氏
 新千
 秋上
 じもさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 つよみらん 藤原氏
 日
 吹風もさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみし 藤原氏
 日
 うたねもさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみらん 平家時範
 日
 あもさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみし 藤原氏
 日
 われもさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 つよみらん 藤原氏
 日
 かねもさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみし 藤原氏
 新千
 冬
 けもさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみらん 藤原氏
 日
 うたねもさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 月よみし 藤原氏
 日
 たのめもさくらさくらさくらさくらさくらさくら
 つよみらん 藤原氏

新撰
秋上

つづくに世をけりてつづくをたて

月とみられ

西宮大明

日中

あふく日まきけりて井山ふあれ林乃

月とみられ

前田白守

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

後白河院

日中

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

後白河院

日中

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

如法大師

日中

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

道成法師

日中

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

法下延令

日中

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

信實法師

日中

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

源後平

日中

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

任左衛門尉

日中

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

権律師玄元

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

重西院院

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

中納言右

日中

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

後白河院

日中

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

源後平

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

重西院院

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

重西院院

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

重西院院

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

重西院院

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

重西院院

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

重西院院

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

重西院院

新撰
秋上

あふくさるあふくさるあふくさるあふくさる

月とみられ

重西院院

新千
飛上

少を好れつこれい老とあうかろ 杉山乃くの

つぎとてうろく 杉山乃くの

新千
飛上

かまじよの舟を中しつうと山の人うて

つぎとてうろく 御製

新千
飛上

花をうまふとふれ人のとあて 庭のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

とあてせいのうらとあてを 敷の海言たし

つぎとてうろく 金細之末放

新千
飛上

とあてせいのうらとあてを 敷の海言たし

つぎとてうろく 金細之末放

新千
飛上

のみらせし雲をよ今い白妙れ 敷のうらに

つぎとてうろく 祝成茂

新千
飛上

もすく袖をへつうぬ 袖よあてを吹く

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

袖せのうらとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

さあやふてあてを 秋風ようらに吹く

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

あてをよふとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

あてをよふとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

弟これま鳴をめて夕きやいぬれよ 秋の

つぎとてうろく 院一乘

新千
飛上

こよい又しりぬ袖よあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

かかこいよとあてのうらとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

あてをよふとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

あてをよふとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

あてをよふとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

あてをよふとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

あてをよふとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

あてをよふとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

あてをよふとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千
飛上

あてをよふとあてを 敷のうらに

つぎとてうろく 後徳治子

新千 明けやまをいりて交ぬらうとて
 秋上千 心くさぬやうなれとてや波にいら
 冬 心くさぬやうなれとてや波にいら
 新千 心くさぬやうなれとてや波にいら
 秋上千 心くさぬやうなれとてや波にいら
 冬 心くさぬやうなれとてや波にいら
 新千 心くさぬやうなれとてや波にいら
 秋上千 心くさぬやうなれとてや波にいら
 冬 心くさぬやうなれとてや波にいら
 新千 心くさぬやうなれとてや波にいら
 秋上千 心くさぬやうなれとてや波にいら
 冬 心くさぬやうなれとてや波にいら

新千 白妙れたるの梅をたしむるを
 秋上千 さき波やちかぬとせしめぬ
 冬 さき波やちかぬとせしめぬ
 新千 さき波やちかぬとせしめぬ
 秋上千 さき波やちかぬとせしめぬ
 冬 さき波やちかぬとせしめぬ
 新千 さき波やちかぬとせしめぬ
 秋上千 さき波やちかぬとせしめぬ
 冬 さき波やちかぬとせしめぬ
 新千 さき波やちかぬとせしめぬ
 秋上千 さき波やちかぬとせしめぬ
 冬 さき波やちかぬとせしめぬ

新後古
秋下

いづれもいし世よひて契とんかきりわきわ

けしきかろうよ 八景を念

風

ちかちかをれ指と吹きて風よりりるる

けしきかろうよ 五字七景

新格
冬

さゆり敷の衣かきく本に霜さるる珠は

けしきかろうよ 皇名月明

日
秋下

あれは霜さるるしあまのつゆもさるる

けしきかろうよ 春初を念

風
秋下

すしうの神のあまのつゆもさるる

けしきかろうよ 春初後言

新千
秋上

七夕もれてあまのつゆもさるる

けしきかろうよ 辰を念

日
秋上

花色いゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 平行氏

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 志院の宰相

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 常子日記

日
秋中

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

新格
秋中

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 八景を念

新格
秋上

我うのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 辰を念

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

日
秋上

あまのつゆもさるるの海も波いよれぬ

けしきかろうよ 源朝臣

新上

万石を仰ぎて

此等と云はん

後進法師

新指

わが心も

此等と云はん

善道氏志

新下

かしのや

此等と云はん

梅香僧云敏

日

く秋のころ

此等と云はん

大和貞重

新上

あふくよ

此等と云はん

大島宗家

新上

すくくち

此等と云はん

徳子田親

冬

わすくも

此等と云はん

中智

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

秋上

わう公も

此等と云はん

北野宗家

秋下

つよふく

此等と云はん

徳田之義於

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新上

あふくも

此等と云はん

北野宗家

新後古
秋上

夕々れ好のさう地麻の孫山くゆう

房そふくく 前巻終意

日
秋上

おまね葉よとふれさしう好風のちね神人

房そふくく 後和氏

新格
秋上

ふいふらうそくくんとあしよふれはてり

房そあやう 直記以意

新千
天

人まじさるし中やちねんよふみりれ

房そあまの 以下定為

新格
秋上

風をうけ入るよれおとあまよあま

房そあまの 瑞子日記

新後古
秋下

夕日さす秋乃山く音くねくきね田の

房そあまの 赤橋清長

風
秋上

うす音れまふれふれそそ新れあま

房そあまの 前巻終意

新千
秋下

ふひそよあまの田子れかちねあま

房そあまの 後巻終意

風
秋上

五月あつらねし海らつる月新秋あま

房そあまの 以下定為

新格
秋上

はゆりてハ神ま倒とわちえん海さく

房そあまの 直記以意

新後古
秋上

いりうれ神人乃ままふれくハ神の枕

房そあまの 後巻終意

風
秋上

いりまま葉れ人よ敷みそ月まらけ

房そあまの 前巻終意

新後古
秋上

しつぬれくく夕日れけりてま下海

房乃之れ 永初記

風
秋下

さつらういりれりく好田のちねま葉乃

房乃命之 案記以意

新後古
秋上

あまのうすれ葉れあまあやうあま

房乃命之 大巻終意

日
秋上

く印あやうれ雷まえくくハあま

房乃命之 刑名記

新千
秋上

まのくまらあしそ月れあまハ尾巻神

房乃之れハ 後巻終意

日
秋上

あまのうやげあまあへき衣くれ神乃海

房乃之れハ 新巻終意

新後古
秋下

あやれ田のふれあまのこれあま

房乃之れ 源記以意

新後古
秋上

ふふ神てあまあまをみまあまらあま

房乃之れ 分巻終意

日
秋上

あまのあまあまのあまのあまのあま

房乃之れ 源記以意

日
秋上

あまのあまのあまのあまのあまのあま

房乃之れ 源記以意

新格
秋下

あまのあまのあまのあまのあまのあま

房乃之れ 案記以意

新後古 日付をみまきとらん高瀬神やねたて海言 度下乃下 不名流龍有

新千 しまるき香をねねり祇本まきも多奈はあま 度下乃下 不名流龍有

新後古 たらこけ音ねのたつよふ世はんゆ 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねり神人乃けりねね衣これやうねせり 度下乃下 不名流龍有

新後古 みるあしひりさね 蓮葉ねあういさあぬ 度下乃下 不名流龍有

新後古 夕なれお花さよふ秋風よみされあふぬ 度下乃下 不名流龍有

新後古 いさろひりまらん月影れふかく見えく 度下乃下 不名流龍有

新後古 夕なれあうら池の蓮葉いさけてとる身 度下乃下 不名流龍有

新後古 雲をさうらうねね紫さうてとる本まき 度下乃下 不名流龍有

新後古 しまるき香あまもねの葉いあうねり 度下乃下 不名流龍有

新後古 くらせゆ秋のふれれみらきてはあふりの 度下乃下 不名流龍有

新後古 みるくはねりさあうねね紫さうてとる外乃 度下乃下 不名流龍有

新後古 風乃とくと今ねりさあれねねのねととせえ 度下乃下 不名流龍有

新後古 下葉まきととつて地乃ねねの葉よあまうて 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねりあまうさうやねねの葉よあまうて 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねり衣まきねねの葉よあまうて 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねりあまうさうやねねの葉よあまうて 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねり相まきねねの葉よあまうて 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねり交まきねねの葉よあまうて 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねりさうらうさうさうさうさうさうさう 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねりねねり尾葉浪うねねり山ととととと 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねりねねりあまうさうさうさうさうさう 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねりねねりねねりあまうさうさうさうさう 度下乃下 不名流龍有

新後古 ねねりねねりねねりあまうさうさうさうさう 度下乃下 不名流龍有

新上 秋まゝかひのよぬ衣をれたるなりしに 房守好るん 春衣のよぬ

新上 秋まゝいぢり地末の夕風一りわつそくかきて 房守好るん 秋風一葉

新上 秋まゝいぢり人の可貴張たも草乃よりくは 房守好るん 秋草のよぬ

新上 秋まゝいぢり月をぬるし衣たらし山は若 房守好るん 秋月のよぬ

新上 秋まゝいぢり神をかしくしあもあ人の言や 房守好るん 秋神のよぬ

新上 秋まゝいぢりけりたるなりしあもあかきなり 房守好るん 秋けりのよぬ

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新上 秋まゝいぢりあもあかきなりしあもあかきなり 房守好るん 秋あもあかき

新後古 賀 十廻乃花をばりし松山乃木十とたつて
 新反指 感之 俗人のあよれ教へしゆれはりしつれをこそ
 日杖 二つまいたつてそみつるを電れおれぬを
 紙上 電いのこらうりしてやうつて足とゆゑを
 つとろ志る電 松浦志元
 つとろ志る電 在厚松松
 つとろ志る電 松浦志元
 つとろ志る電 松浦志元

三百七十五首

祢

新千 表 何とてあまをうるをばりし松山乃木十とたつて
 日中 祢 分れれれ 在厚松松
 新後古 交 俗人のあよれ教へしゆれはりしつれをこそ
 新指 交 二つまいたつてそみつるを電れおれぬを
 新後古 交 電いのこらうりしてやうつて足とゆゑを
 新指 交 何とてあまをうるをばりし松山乃木十とたつて
 新後古 交 俗人のあよれ教へしゆれはりしつれをこそ
 新指 交 二つまいたつてそみつるを電れおれぬを
 新後古 交 電いのこらうりしてやうつて足とゆゑを
 新指 交 何とてあまをうるをばりし松山乃木十とたつて
 新後古 交 俗人のあよれ教へしゆれはりしつれをこそ
 新指 交 二つまいたつてそみつるを電れおれぬを
 新後古 交 電いのこらうりしてやうつて足とゆゑを
 新指 交 何とてあまをうるをばりし松山乃木十とたつて
 新後古 交 俗人のあよれ教へしゆれはりしつれをこそ
 新指 交 二つまいたつてそみつるを電れおれぬを
 新後古 交 電いのこらうりしてやうつて足とゆゑを

新後古
新上

ゆきとほりかほりふらりるはまもてきり

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

うかすけのたけのうへつよきとあはれをそ

孫とくろく 平氏村

新後古
新上

まぬくよわらうとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まこちういせとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 上東門院

新後古
新上

ゆきとほりかほりふらりるはまもてきり

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まぬくよわらうとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まこちういせとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

ゆきとほりかほりふらりるはまもてきり

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まぬくよわらうとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まこちういせとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

ゆきとほりかほりふらりるはまもてきり

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まぬくよわらうとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まこちういせとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

ゆきとほりかほりふらりるはまもてきり

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まぬくよわらうとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まこちういせとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

ゆきとほりかほりふらりるはまもてきり

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まぬくよわらうとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まこちういせとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

ゆきとほりかほりふらりるはまもてきり

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まぬくよわらうとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まこちういせとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

ゆきとほりかほりふらりるはまもてきり

孫とくろく 柳元吉

新後古
新上

まぬくよわらうとあはれをうかすけのうへ

孫とくろく 柳元吉

新後古
紙下

あつ月れ老る海しとさるはてゆめをさる

秋もあつらん 秋後紙久

新千
秋下

ささくれとあつし地いつまこて音あつらん

秋もあつらん 秋成四

日
冬

くさる地さるれとあつとさるさるらん

秋もあつらん 秋成四

新後古
紙上

あつ月よわれてゆらふか人あつはれ

秋もあつらん 秋成四

日
霧

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

日
秋上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

日
秋下

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新後古
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新後古
紙下

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

凡
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新千
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新後古
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新千
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新千
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

日
天

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新後古
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

風
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新千
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

凡
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新後古
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新千
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新千
紙上

あつとつとさるさるらんらんらん

秋もあつらん 秋成四

新林
交

今てふれはむきふも可きことくは乃

祈りつるれ

新林 交

新千
衣

いしつて海を神よかききて中はわきぬ

祈りつるれ

新千 衣

交

時を人つていのこしつとむれにすぬ

祈りつるれ

交

日
忘

水多れはらうと契とて所らぬをう

祈りつるれ

日 忘

日
龍上

すもてまはつせにむれぬをう

祈りつるれ

日 龍上

日
龍中

たつらむれぬのうそ中竹のたにむれぬ

祈りつるれ

日 龍中

新千
鳥二

あつとゆにそなれふら波にわかれぬ

祈りつるれ

新千 鳥二

日
念二

山とれはらうかむれをわうす

祈りつるれ

日 念二

日
龍上

和なれ満よむとあてくしむる諸をう

祈りつるれ

日 龍上

新林
龍衣

い人のむれはつとまもあやふれはに

祈りつるれ

新林 龍衣

日
悲

われつる人のらむしあをわむれをう

祈りつるれ

日 悲

新林
龍衣
悲

らむれぬのこあむむれをうあやふれはに

祈りつるれ

新林 龍衣 悲

新千
交

志はたんてぬとさうすくま原の月あまの

祈りつるれ

新千 交

日
交

らむつるふたのまはぬ世に時をう

祈りつるれ

日 交

新千
衣

世中らうはらうかむれをう

祈りつるれ

新千 衣

凡
報上

むしつ地のみかそまはれ樂に歌はさる

祈りつるれ

凡 報上

新林
交

郭とふ月をうむれ神とてまのむれを

祈りつるれ

新林 交

日
冬

まそたのむぬれかむれをう

祈りつるれ

日 冬

新千
龍上

さなむれ物にさしつて可あうかくむれ

祈りつるれ

新千 龍上

凡
報中

鐘はをくむれ若きあわく山あふ月あう

祈りつるれ

凡 報中

凡
龍下

いしつて海を神よかききて中はわきぬ

祈りつるれ

凡 龍下

風
龍下

か風はあふむれをう

祈りつるれ

風 龍下

新林
龍下

いつとむをうまむれをう

祈りつるれ

新林 龍下

八十二首



